

## 追悼！川合葉子さん（本会常任世話人）

### 夫君とともに貫く「非核平和の生涯」

本会代表 望田幸男

女性専用のメッセージ欄に、いささか私情もからんで登場をお許しいただいた。本年5月2日、本会常任世話人・川合葉子さんが、長い闘病のあと亡くなられた。彼女は私と大学同期である。以来70年を超えて、さまざまな局面で志をともにしつつ人生を疾走してきた。本会では彼女は世話人（1999年）、常任世話人（2003年）の任にあたっていた。

彼女は著名な哲学者梯明秀の長女であったことから、京都の知識人とのつながりも多く、それらの人々に接する機会を早くから私たちにつくってくれた。のちに本会の初代代表となった岩井忠熊氏を、大学一年の私たちに引き合わせてくれたのも彼女だった。それ以来、私も岩井先生との関係を今日まで続けている。

本会における川合さんの活動といえば、「劣化ウラン弾」に関するビデオと解説など数あるなかでも、1991年10月におこなった「非核平和を願う、自然と環境を守る女性の集い」がとくに想起される。これは自然と環境を守る運動にかかわっている女性たちを、核戦争こそ最大の自然破壊であるという自覚に導く道を考えようという集いであった。川合さんはこれの組織化から集会の司会に至るまで中心的な役割を果たされた（集会の呼びかけ団体15、参集者75名）。

最後に付言しておくべきは、夫君一良氏とともにとりくんできた『原爆展』掘り起しの会（1991年発足）のことである。この「会」は、1951年に京大同学会によって行われた「総合原爆展」の全貌を後世に語り伝えようと、川合夫妻が中心となって発足した。小畑哲雄『占領下の原爆展』（1995年、かもがわ出版）には、非核平和への願いと活動を貫いた川合夫妻の想いをうかがい知ることができる。

川合さん、追想はとめどもなく続きそうです。以上でお別れの言葉とさせていただきます。どうか「非核の会・京都」の願いが達成される日まで見守ってください。

#### <編集への参考>

パンフ『非核の政府を求める京都の会 10年のあゆみ』31ページの写真